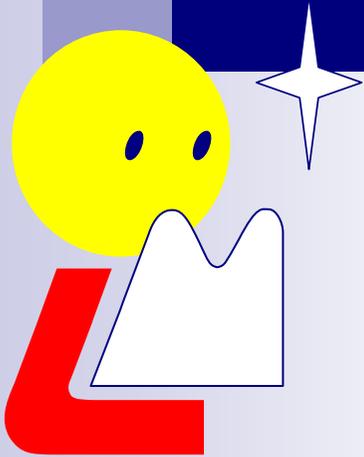


大阪市立図書館のサービス展開

~知識創造型図書館をめざして~



大阪市立図書館
平成23年7月更新

大阪市立図書館は知識創造型図書館を目指します

目次

■ 図書館改革

- ・知識創造型図書館への改革
- ・効率的な運営体制の確立
- ・職員数の推移
- ・改革スケジュール
- ・窓口等業務委託の現状
- ・開館日の拡大

■ サービス概況(平成22年度)

■ 指定都市比較(5大都市)

- ①蔵書数と貸出冊数(平成22年度)
- ②調査相談と予約件数(平成22年度)
- ③読書普及事業(平成22年度)
- ④開館日数(平成22年度)
- ⑤職員構成(平成22年度)

■ 商用データベース利用統計(平成22年度)

■ 地域読書活動推進

概念図

- ①区・地域施設との連携(平成22年度)
- ②学校との連携・支援(平成22年度)
学校への団体貸出
- ③市民ボランティアの養成・活動支援
市民の読書支援活動ボランティアとの協働

■ 経年変化

- ・最近10年の貸出冊数・予約冊数の推移
- ・市民の蔵書検索回数
(検索画面アクセス件数)の推移
- ・予約冊数の推移(全館)
- ・市立図書館間の相互貸借貸出冊数推移

■ 内部評価

- ・大阪市のベストプラクティス事業
(平成21年度)

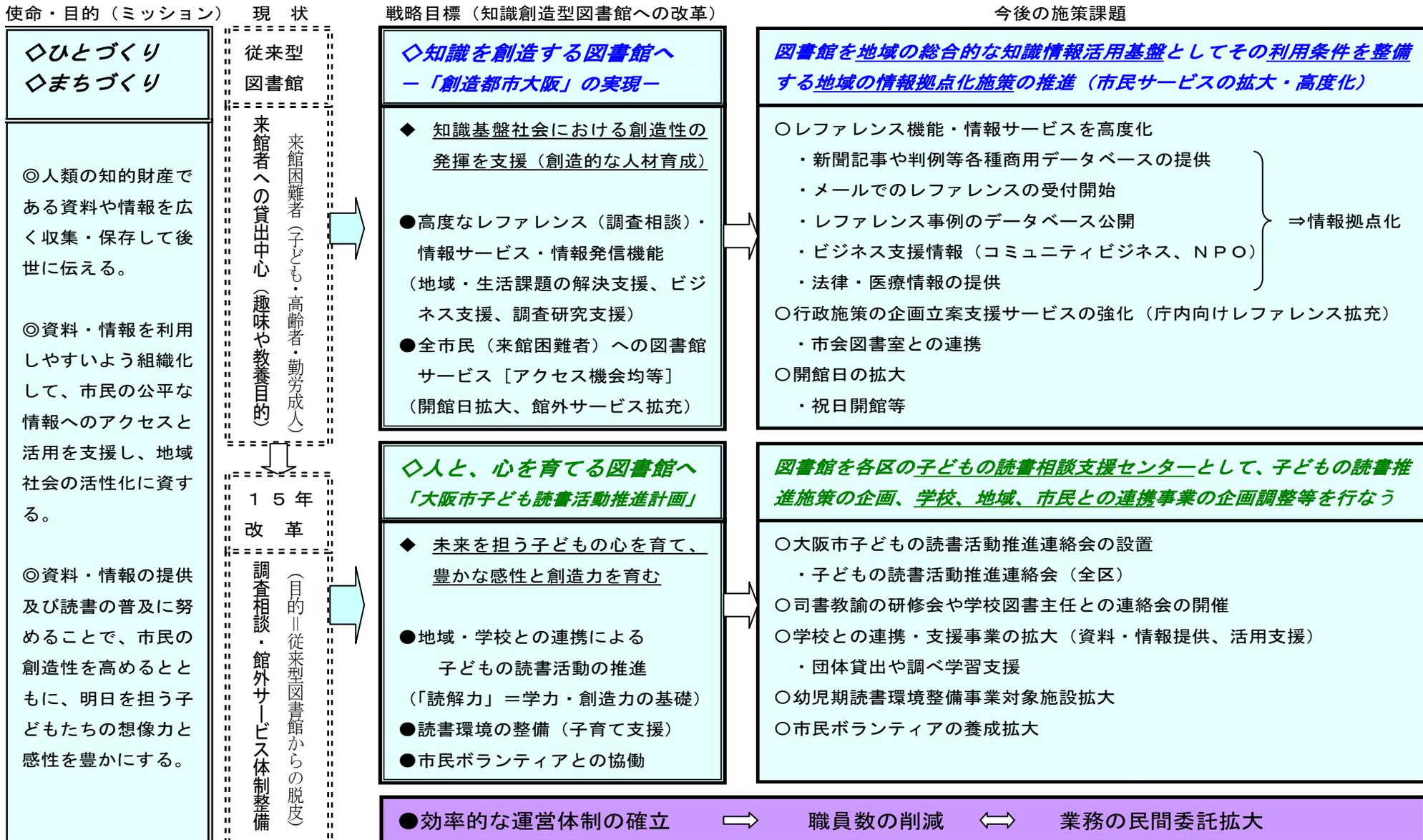
■ 外部からの評価

- ・Library of the Year2009大賞 受賞
- ・大阪市 事業仕分け(平成22年度)

<図書館改革>

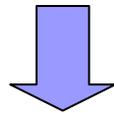
□ 知識創造型図書館への改革

■ 知識創造型図書館とは・・・「いつでも・どこでも・だれもが、課題解決に必要な情報にアクセス可能な、創造都市の知識・情報基盤」



効率的な運営体制の確立

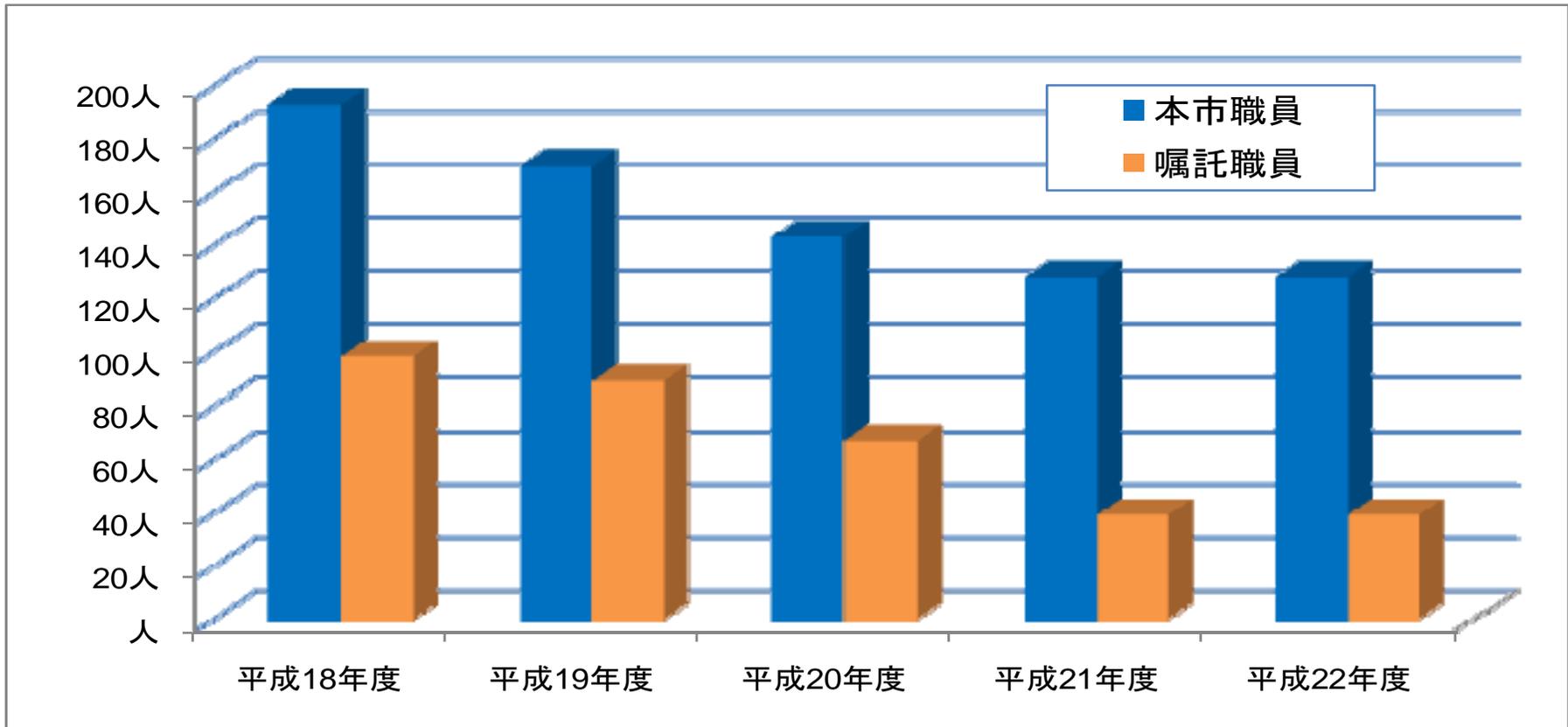
- 本市職員定数の見直し(34%減 - 18年度と22年度の比較)
- 市立全館 窓口等定型業務の民間委託
- 逡送業務・自動車文庫運転業務の民間委託



- 開館日拡大
- 自動車文庫のステーション増
(18年度:68か所 → 22年度:105か所)
- 幼児施設への貸出便の増



職員数の推移



	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
本市職員	193人	170人	143人	128人	128人
嘱託職員	98人	89人	67人	39人	39人

改革スケジュール

<図書館改革>

	事業内容	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
知識創造型図書館改革	カウンター等定型業務委託		中央+地域館3館業務委託試行	地域館9館業務委託(中央+地域館12館業務委託)	地域館11館業務委託(全館業務委託)	全館業務委託	
	自動車文庫・搬送車運転業務委託(自動車文庫のステーション拡大)			民間業務委託			
	中央図書館 祝日・通年開館	祝日開館試行	<祝日開館検証>(維持管理・業務調整)	祝日試行開館	通年試行開館	<通年検証>	
	地域図書館 祝日・通年開館		祝日開館試行(住吉)	祝日試行開館	<祝日試行開館検証>(維持管理・業務調整)	夏季開館(地域館)	
	幼児期読書環境整備事業の拡大	260施設	<事業計画策定>	対象施設拡大			
	市民ボランティアの養成拡大(学校支援・地域読書推進)	900人	養成講座	養成講座	養成講座	2,500人	
	学校連携事業:調べ学習支援		貸出用図書購入75セット	貸出用図書購入75セット	貸出用図書購入75セット	貸出用図書購入75セット	
	情報サービス・レファレンス機能高度化(商用データベース、専門図書の整備)		商用データベース提供ビジネス支援	メールレファレンスレファレンス事例公開	商用データベース活用講座の開催		

サービス内容検証

窓口等業務委託の現状

<図書館改革>

館名		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
中央		← 3年契約 → 【T社】（プロポーザル応募4社）			← 3年契約 → 【T社】（プロポーザル応募1社）		
南西ブロック	阿倍野 浪速 住吉 住吉 西成			← 3年契約 → 【T社】（プロポーザル応募2社）		3年契約予定 → 26年度まで	
		← 地域3館2年契約 → 【T社】（応募4社）					
北ブロック	東淀川 北島 之内 淀川			← 3年契約 → 【N社】（プロポーザル応募4社）		3年契約 → 25年度まで	
西ブロック	西淀川 福島 此花 港 大正			← 3年契約 → 【T社】（プロポーザル応募2社）		3年契約 → 25年度まで	
東ブロック	旭 都島 城東 鶴見			← 3年契約 → 【D社】（プロポーザル応募4社）		3年契約 → 26年度まで	
		← 地域3館2年契約 → 【T社】（応募4社）					
南東ブロック	平野 天王寺 東成 生野 東住吉			← 3年契約 → 【T社】（プロポーザル応募3社）		3年契約 → 26年度まで	
		← 地域3館2年契約 → 【T社】（応募4社）					

○問題点

- 応募業者が年々減少しており、全国的にも財務体力があり一定の評価を受けている業者が、寡占・独占状態になる傾向がある
- 契約年数が3年で、雇用の継続性や責任者、管理者層の育成に難がある
- 市場が未成熟のため、移行時や業者変更時は不安定で本市職員の指導が必要

開館日の拡大

- 平成19年度～ 中央図書館祝日開館
- 平成20年度～ 地域図書館祝日開館
- 平成21年度～ 中央図書館月2回の休館日設定(第1・3木曜)
- 平成22年度～ 地域図書館夏休み期間月曜日開館

開館日数の推移

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
中央図書館	274日	290日	285日	323日	324日
地域図書館	280日	283日	297日	296日	300日

サービス概況(平成22年度)

大阪市人口 267万人

図書購入費 約1億8千4百万円

登録者数	592,297	相互貸借 (貸出冊数)	3,586,816
貸出冊数	12,691,500	HPアクセス (トップページ)	2,662,739
予約件数	2,843,293	HPアクセス (蔵書検索ページ)	4,310,583
相談件数	212,051	文献複写	597,813

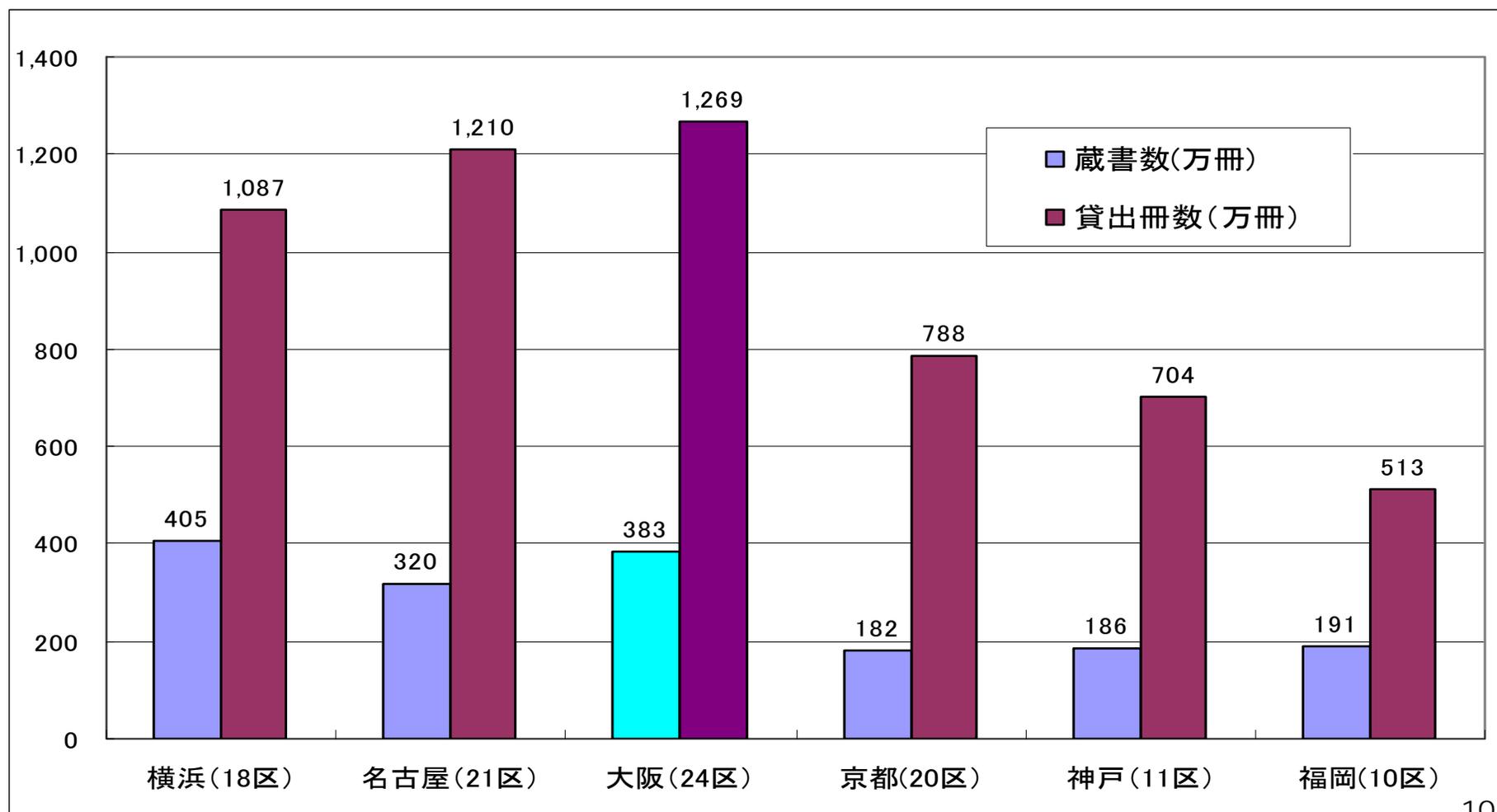
中央図書館入館者数 176万人/年

地域図書館入館者数 457万人/年(推計)

合計 633万人/年

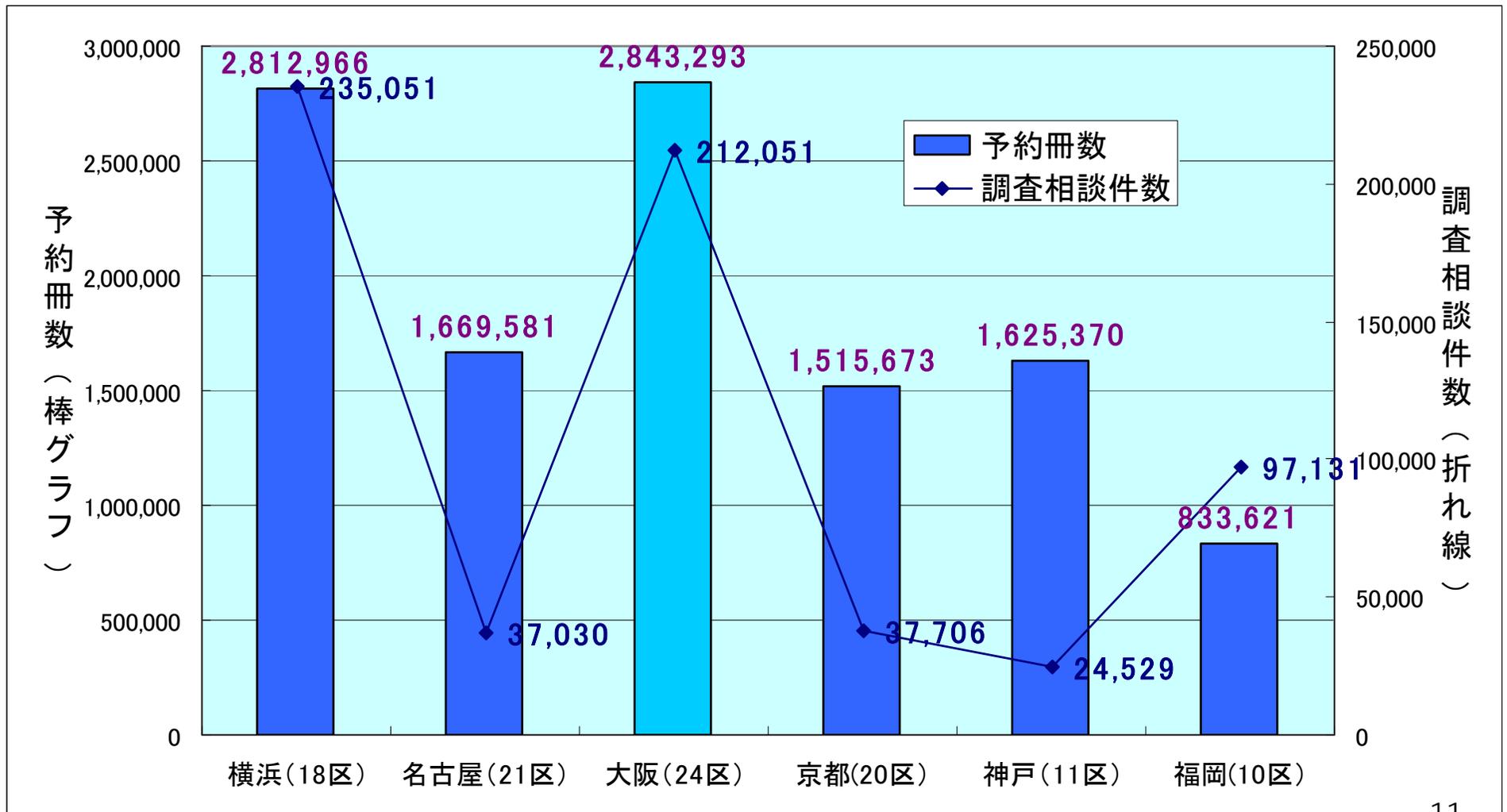
指定都市比較(5大都市)

①蔵書数と貸出冊数(平成22年度)



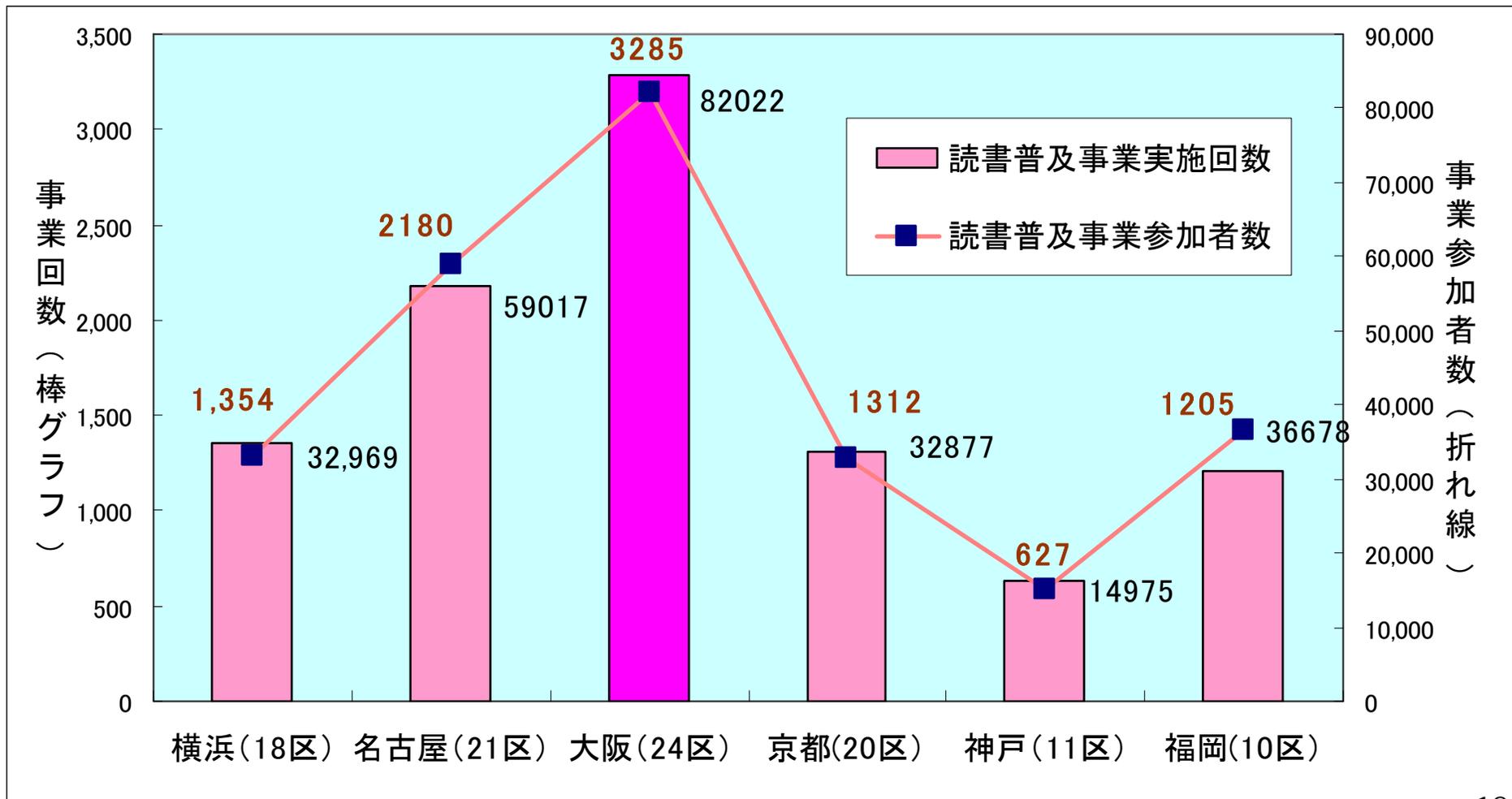
指定都市比較(5大都市)

②調査相談と予約件数(平成22年度)



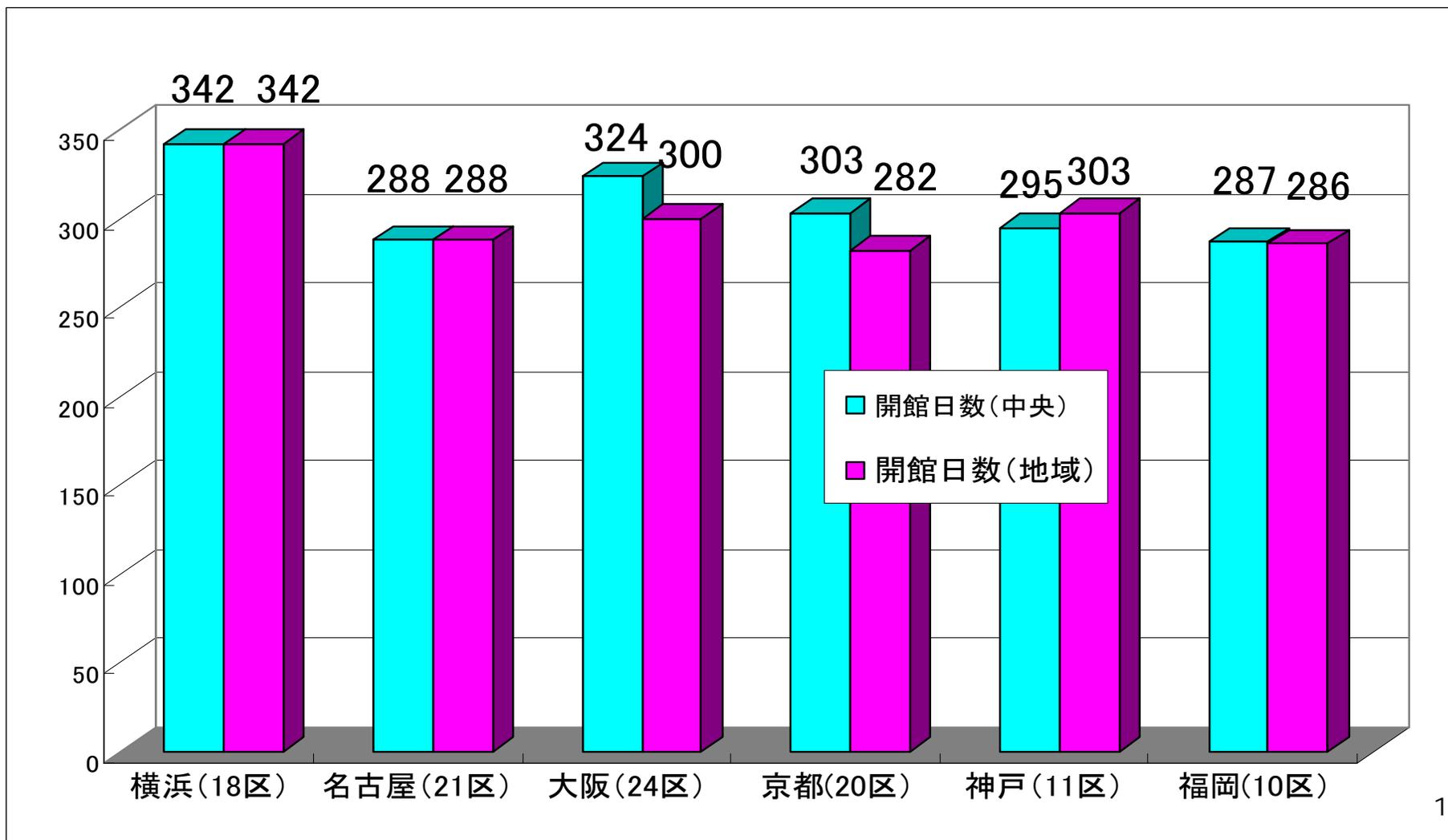
指定都市比較(5大都市)

③読書普及事業(平成22年度)



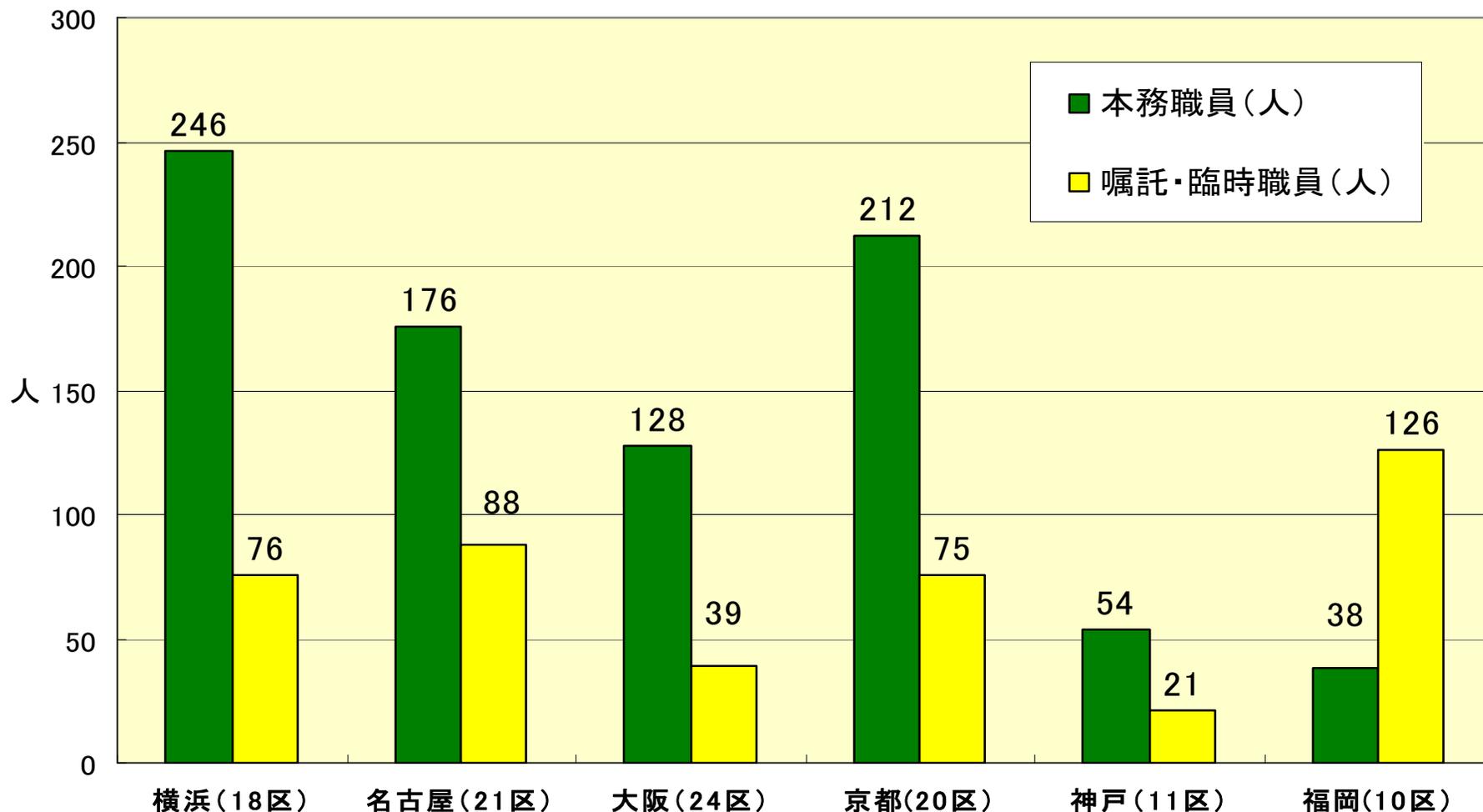
指定都市比較(5大都市)

④開館日数(平成22年度)



指定都市比較(5大都市)

⑤職員構成(平成22年度)



商用データベース利用統計(平成22年度)

種別 (データベース数)	新聞 雑誌 (11)	政策 法律 (5)	自然科学 医学 (6)	辞典 事典 (6)	合 計 (28)
利用件数	70,577	6,592	9,575	35,952	122,696

■ 「平成22年度 教育委員会事務局経営方針」(業績目標)

商用データベース 総アクセス件数

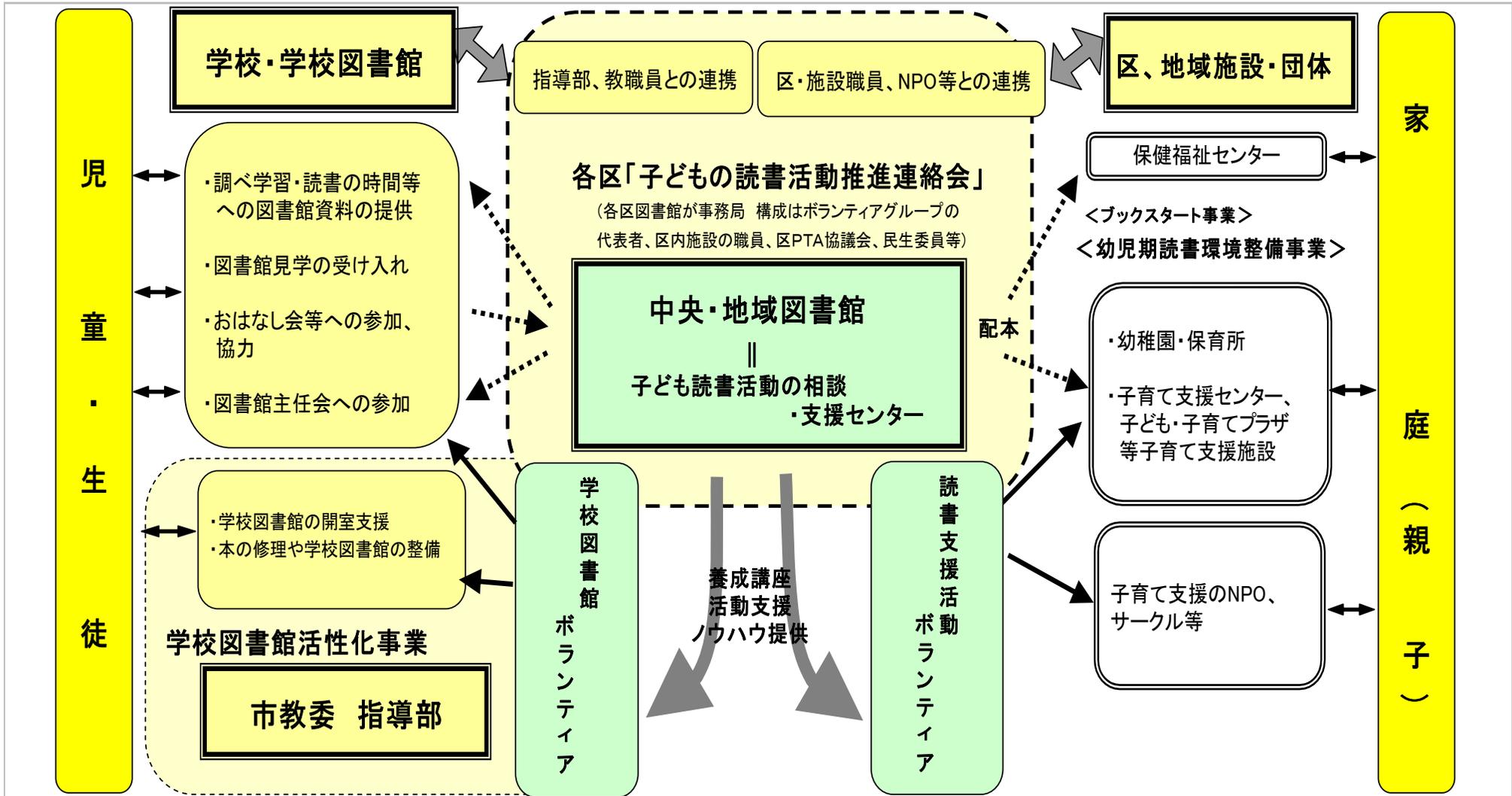
20 年度実績の5%増 = **107,000**
件

(20 年度実績101,954 件)



地域読書活動推進

概念図



地域読書活動推進

①区・地域施設との連携（平成22年度実績）

■ 地域読書環境整備事業

○ 幼児期読書環境整備（保育所・幼稚園）

24区317施設 図書貸出 317回 33,287冊

ボランティア活動（絵本の読み聞かせ等）524回

○ 高齢者読書環境整備（高齢者福祉施設）

24区 28施設 図書貸出 319回 44,170冊

ボランティア活動（本の朗読・紙芝居等）951回

■ ブックスタート事業支援

参考：参加者数：11,356人

※方式変更以降の実績（H22年度.8月~3月）

地域読書活動推進

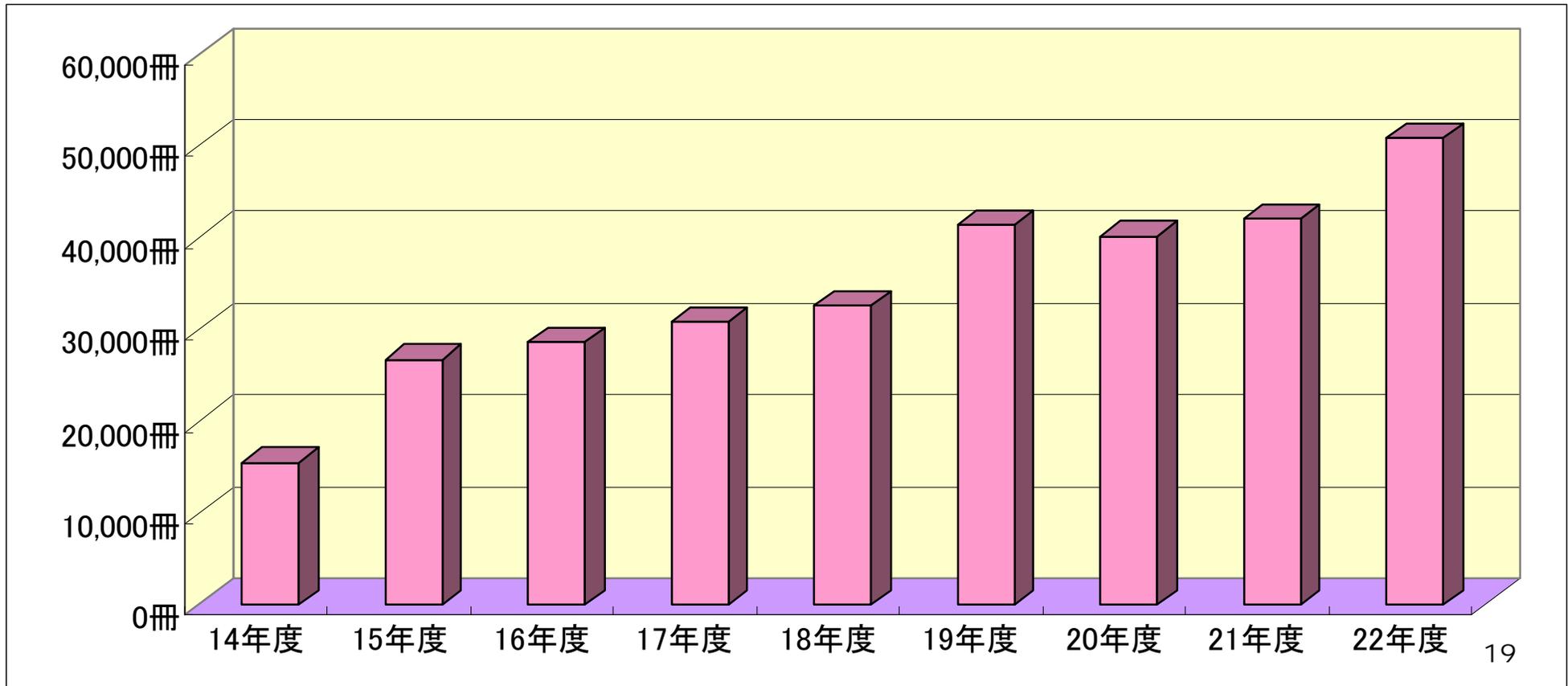
②学校との連携・支援（平成22年度実績）

大阪市立 小学校299校 中学校130校 特別支援学校9校

資料・情報提供	学校への団体貸出	50,746冊
資料・情報活用の支援	図書館見学	225件
	図書館での調べ学習等	382件
読書普及活動への支援	おはなし会等の学校での実施	610件
職場体験学習の受け入れ	図書館員の仕事を体験	93件
学校図書館主任会への参加等	学校図書館主任会への参加、 教員研修受け入れ	35件

学校への団体貸出

- 学校への団体貸出に迅速に対応できるように、平成19年度から22年度までに全小学校を対象に、調べ学習用図書300セット、約9,000冊の整備。
「平成22年度 教育委員会事務局経営方針」
(達成目標)市立図書館から学校への団体貸出冊数 年間 45,000 冊



地域読書活動推進

③市民ボランティアの養成・活動支援

ボランティア養成講座(中央・地域館)平成22年度

	講座数	延回数	延参加者数
図書ボランティア講座(幼児期)	1 講座	延 46回(*)	延 968 人
図書ボランティア講座(高齢者)	1 講座	延 36回(*)	延 609 人
対面朗読協力者連絡会	1 講座	延 13回	延 169 人
マルチメディアデイジー製作者講習会	1 講座	延 4回	延 43 人
ボランティア講座(学校図書館支援)	184講座	延 184回	延 1,905人
ブックスタート入門講座	2講座	延 5回	延 541人
合 計	190講座	延 288回	延 4,235人

(*)各区での実習を含む

市民の読書支援活動ボランティアとの協働

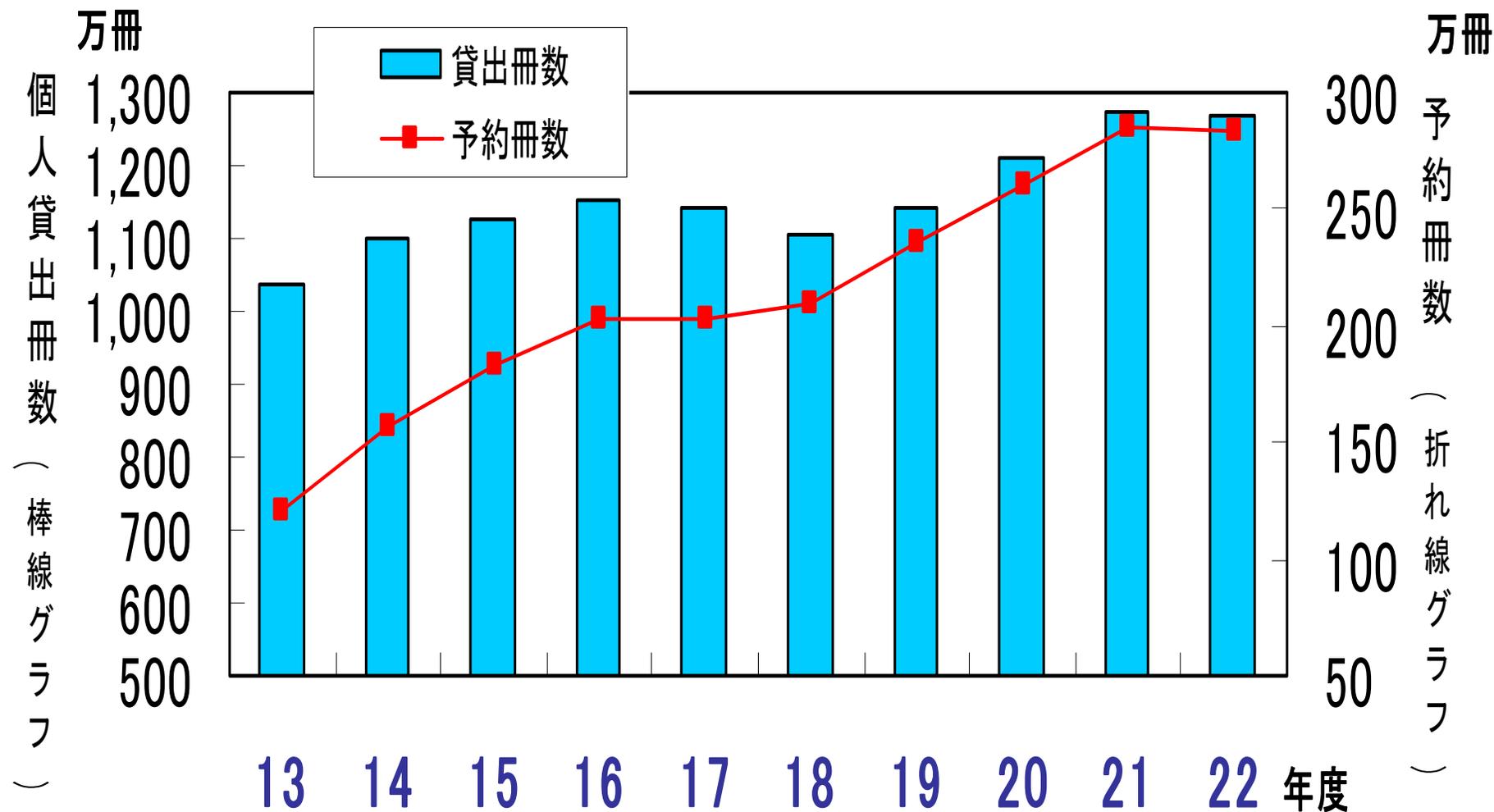
- 保育所等で読み聞かせなどを行うボランティア 1,107人
- 高齢者福祉施設で本の貸出や朗読などを行うボランティア 494人
- 学校でおはなし会をしたり、学校図書館に協力するボランティア 672人
- その他に点訳絵本や布の絵本づくり、図書館内での展示などのボランティア 240人

(平成23年3月31日現在) 合計 2,513人

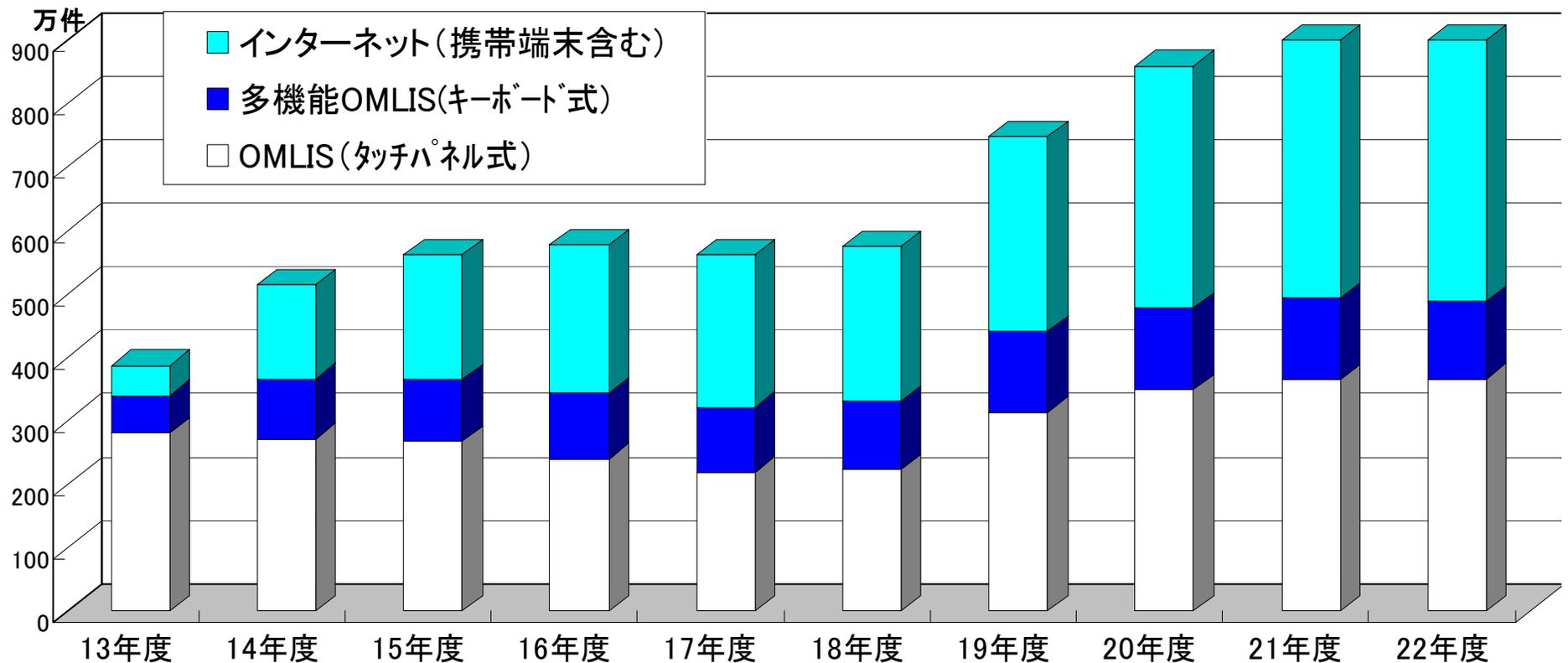
・「平成22年度 大阪市教育委員会事務局経営方針」

(達成目標)読書支援活動ボランティアの養成 22年度 2,500人以上(19年度末 1,870人)

最近10年の貸出冊数・予約冊数の推移

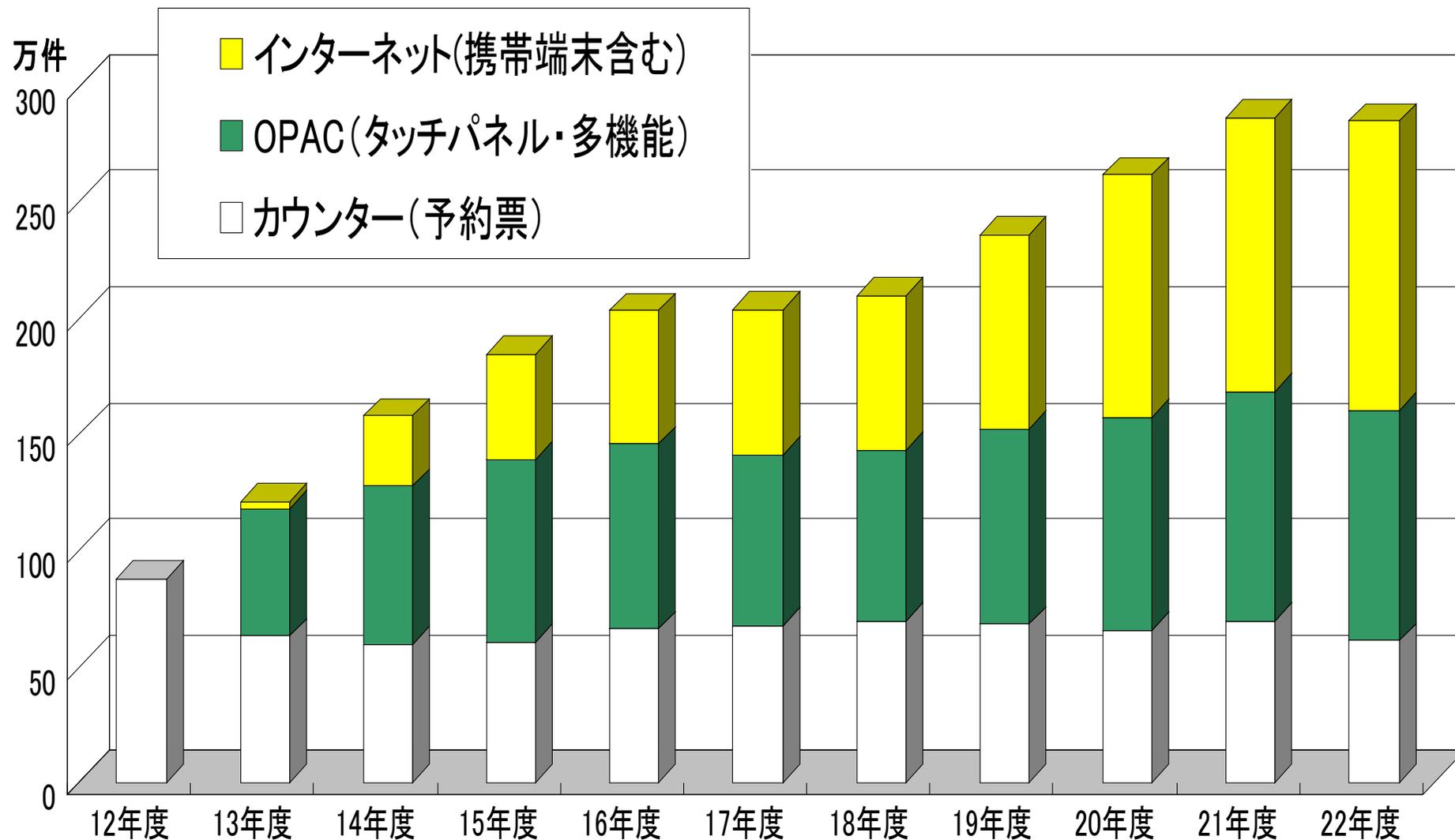


市民の蔵書検索回数 (検索画面アクセス件数)の推移

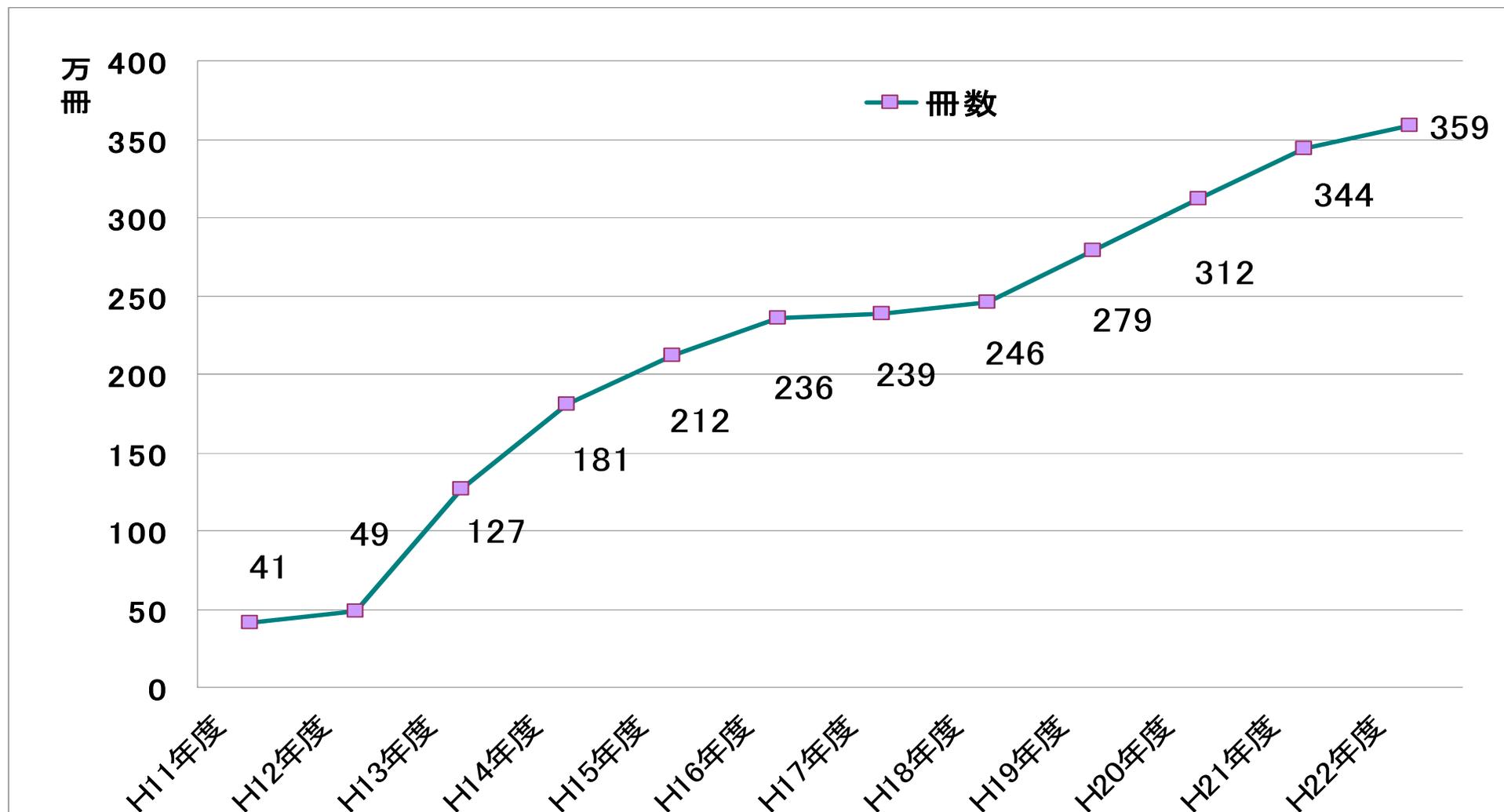


※OMLIS:利用者用情報検索端末(館内設置)

予約冊数の推移(全館)



市立図書館間の相互貸借出冊数の推移



知識創造型図書館改革プロジェクトが 大阪市のベストプラクティス事業(平成22年度)に

各局より提出のあった事業(48事業)の中から、評価の
高かった取組(9事業)の1つに選ばれた

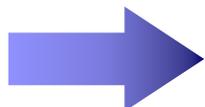
＜対象事業＞

- 市民目線に立って、コストを極力抑制しながら、また市民との協働、連携拡大に創意工夫を凝らして実施し、結果、目立った成果をあげることができた事業
- 難しい課題に果敢にチャレンジし、課題解決に向けた契機となり、次の展開や発展可能性が見込める事業 など

ベストプラクティス事業(平成22年度)

局の提出事業					
所属名	事業名	概要			アピールポイント
教育委員会事務局	知識創造型図書館改革プロジェクト	<p>市民が課題解決に必要な情報にアクセスできる「知識を創造する図書館」、未来を担う子どもの心を育て、豊かな感性と創造力を育む「人と心を育てる図書館」を目指し、機能拡充を行う。</p> <p>定型業務の民間委託など効率的な運営体制を構築し、コストを抑制するとともに、調査相談機能・情報サービスの高度化、開館日拡大等による利便性向上、市民協働による子どもの読書活動の推進などサービスの向上を進めている。</p>			<p>民間委託すること等によりコストを抑制。</p> <p>図書館の情報検索端末で閲覧できる商用データベース28種（日本最大規模）、平成21年には、24市立図書館全館で閲覧できるデータベース活用のモデルを示した点等を評価され、「ライブラリー オブ ザ イヤー 2009」（主催：NPO法人IRI知的資源イニシアチブ）の大賞に選ばれた。</p> <p>読書支援活動ボランティアを図書館が支援することによって、新たな市民協働を実現</p>
評価					
視点① チャレンジ性	視点② 創意工夫	視点③ アピール性	視点④ 将来性	総合	コメント
☆	☆☆	☆☆☆	☆	☆☆☆☆	<p>読書活動支援ボランティアの活用や、民間委託により、サービス拡大の一方で平成18年度比で予算を約11%削減しており、創意工夫の視点で特に評価できる。</p> <p>また日本最大規模の28種商用データベースを無料で提供しており、全国の図書館の中から「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー 2009」の大賞に選ばれており、アピール性の視点で極めて高く評価できる。</p>

詳細は



平成22年度ベストプラクティス事業評価(試行)

Library of the Year 2009大賞受賞

- Library of the Year 2009 とは、IRI(知的資源イニシアティブ)が図書館など全国の知的情報資源に関わる機関を対象として授与する賞で、2006年に始まった。

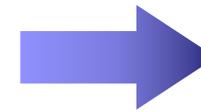


- データベースの数が多く利用が簡単であるなど、図書館でのデータベース利用のモデルを示し、**知識創造型図書館**としての活動が評価された。

大阪市 事業仕分け(平成22年度)

- 平成22年8月21日・22日に事業仕分け(第3回)を実施
- 「図書館の機能充実」が対象事業に
概算事業費:518百万円

詳細は



- ・録画映像
- ・資料
- ・判定理由等
- ・議事概要
- ・事業仕分けを受けた
取組方向

大阪市の事業仕分けに関するウェブサイトのスクリーンショット。ページの上部には「OSAKA CITY 大阪市」のロゴと多言語メニュー（English, 한국어, 中文, Français, Español, Português）があり、携帯版サイトのリンクも提供されている。ナビゲーションメニューには「総合」「市民の方へ」「事業者の方へ」「イベント・観光」「市政」「組織一覧」があり、「市政」が選択されている。メインの見出しは「大阪市では平成22年8月21日・22日に事業仕分け(第3回)を実施します」とあり、その下に「~事業の見直しを公開で議論~ 今年度は、ライブ中継を実施」というサブ見出しがある。本文には、平成20年度からの市民サービスの質的向上や業務のより一層の効率化に向け、公開の場で、外部の視点から事務事業の見直しの方針について議論を行う「事業仕分け」を実施してきていますが、今回3回目となる事業仕分けを、平成22年8月21日(土)・22日(日)に大阪市職員人材開発センターで実施する旨が記載されている。また、今回の実施概要は「事務事業の見直し」で実施するものであると説明されている。

事業番号	事業名等	所管局	仕分け結果	仕分け人の判定					
				不要(廃止)	民営化	国・府実施	市実施 (民間活用、市民等との協働拡大)	市実施 (要改善)	市実施 (現行どおり)
2-5	図書館の機能充実	教育委員会事務局	市実施 (要改善)				2	2*	1